

文化



卯年祭り

12年に1度の祭り「卯年大祭」

読んで字のごとく、卯年（うさぎ年）にのみ行われるお祭りです。

卯年っ？

ということは・・・

そう、12年に1度だけ開催される田舎の大行事なのです。

12年に1度だけですよ！

南魚沼市中之島地区と上田地区に伝わる伝統行事。

宝永（1712年）辛卯の年が始まりとされています。

・・・江戸時代じゃないですか！！

昔から卯年には、凶作や疫病の流行、自然災害に多くの庶民が苦しむことが多かったため、神が集落内を廻って厄を祓い、五穀豊穡と平穏を願う「御神廻（ごじんかい）」としたのが起源と言われています。

今だからこそ、神々への祈りと人と人とのつながりを・・・。

私の住む地区では、隣村10カ村で構成する大山組の行列。

神楽・大幟・吹流・大榎・天狗・おかめ・鹿島・翁面に続き、

50名の稚児・巫女・神宮・神輿・そして10台の屋台が十二拍子によって厳粛にすすみ、10か村の御幸渡御の途へ。

400メートルにも及ぶ行列が続きます。

屋台の花飾りや担ぎ手の衣装、笛の音や太鼓の節、

右へ左へと揺れながら担ぐ屋台の動き。
厳粛な中に、そのどれもを10か村で競い合う静かな激しさがあるのです。
そして、御神山の狭い山道を押し上げようとする者、押し戻そうとする者。
熱く勇壮な男たちの姿は圧巻です。

とはいえ、実は12年前の卯年大祭、私も知らないのです。
まだ南魚沼市民じゃなかったもので・・・。
(んっ？当時は塩沢町民というのか・・・)
でも、塩沢弁を巧みに使いこなせる南魚沼市民となった今、
手探りながらも卯年大祭にじわじわ参加中。

とーさんは1年以上も前からピーヒャラ笛の練習。
楽譜は、音符ではなく「チーレロ チレロ ローローロー・・・♪」
これでなんで音楽になるのかが分からない・・・。
キセキだとすら思う。
私は10月から、長女は覚えが早いということで2月からそれぞれ余興演芸の踊りの練習。
最初は扇子を持ったロボットがカタカタ動いているよう。
それが苦節5か月、今はちょっとシナシナ着物が似合ういっちょ前の踊り子！

村祭りでは神楽の長女に続き、次女と私の子ども神楽、そして、とーさんの屋台。
途中抜けして次女と稚児へ。
そして最後に着物に着替えて踊るのです。
本祭りなんて、稚児行列のため次女と私、朝5時15分集合ですよ！
そして10か村をめぐる16キロの渡御を経て、帰宅が夕方6時・・・。
ん～、考えてはいけない。
考えてはひるんでしまう。

ここまで本当に長い月日をかけ、
村民全員が何十にも及ぶ係に分かれて準備をしてきました。
でも、村の誰もが口をそろえてこう言います。
「大変だけど、苦勞とは思わない。」
この祭りがあるから地域の知らないことを知り、
この祭りがあるから地域の人がつながる。
この祭りが地域を育ててくれているんだ、と。

ぜひ12年に1度の卯年大祭をご覧になってみてください。
次でいいや！・・・と言うアナタっ！
次は12年後ですよ。